

於
221
24

東漢

印

繪本通俗三國志四編卷之四

目錄

孔明定計畧四郡

趙雲計取桂陽城

黃忠魏延獻長沙

孫權大戰合肥城

繪本通俗三國志四編卷之四

孔明定計畧四郡

玄徳ハ孔明ゲ計ヒカリテ事故あく。荊及南郡襄陽三ヶ所の
城ヒのり取ムの内ヒあひ喜び。又ハ長久の計ヒ藏ヒ。又ハ忽
まち二人をみ出。荊及長久の計セアモヒウド。ようく賢人ヒ
求セ。問ヒ。といふ諸人。あきそと云々。山陽の人。伊勢籍字機
伯。あく。玄徳昔の恩。あき。あく。おれ。く敬ヒ。宣ヒ。りく。福。づく。も
あう。べき。賢人。と。さくら。タ。伊勢籍。が。曰く。荆襄の世家兄弟五人。
その内一人。ちく。絶。たる。大。賢。人。と。眉の毛。多く。白。い。き。あ
うち襄陽宜城の人。よ。馬良。字。ハ。季常。兄。夢。五人。と。方名
あり。世の。彦。馬氏の五常。白眉最良。とり。り。その弟。馬稷。字。

ハ幼常。さき又深く軍書を明めたり。あんぞ召てやうへひを乞
る。玄徳使とまをとよねき夕人。馬良忽ちよきなり。礼とて河
と高坐。著玄徳長久の計と問え。馬良が曰く。いま襄陽
城へ敵と受の地す。久く守り。幸ふ劉琦。いま病ふ
困り。劉琦とあらの城の主。旧き大將とたゞ称められ。そ
とゆく固く守べ。都へ表を奏へ。劉琦と荆襄の刺史と
し。民のんぞ懷して。そのうち。南の四郡を攻取。金銀とあり。兵糧
と財。よく根本を固せ。また長久の計ある。玄徳曰く。日
ひは四郡とより。ひうある。人ぞ馬良。且く武陵の太守。金旋。長
沙の大守。韓玄。桂陽の大守。趙範。零陽の大守。劉度。
も一ひとの四郡を得。また魚米の便と通じて。とめがな。長久を

人。玄徳をきく。喜んで。四郡を。何く。うり。攻べきと問う。人を。
馬良曰く。湘江の西。零陵。近い。零陵。と。山。はま。武
陵。と。取り。そのうち。湘江の東。桂陽。と。取く。ほど。長
沙。と。玄徳を。ま。幸。ひ。遂。馬良。と。ゆり。從事官。と。伊籍。と。副官
と。孔明。と。商議。と。劉琦。と。襄陽城。と。入。と。關羽。と。よ。ば。く。と。
兵の手配。と。定。ま。河。零陵郡。と。攻取。と。と。張飛。と。先陣。
趙雲。と。後陣。と。玄徳。孔明。中軍。と。あ。と。都合。その勢。一万
五千余騎。建安十四年春正月。打起。関羽。と。そこまで。荆襄の城
と。ま。を。劉封。糜竺。と。江陵城。と。ま。む。よ。む。お。の。と。零陵。乃
城。と。太守。劉度。と。と。玄徳の勢。のむ。と。由。と。きて。嫡子。劉延
と。と。と。で。計。と。幾。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

とあらえや某の内に邢道榮にて方夫不當の大將ゆ。重さ六十斤の大鐵をほく。まきをもてて戰を孔明と。関羽張飛もりへとぐを首を取る。劉度をもあひで。邢道榮をやう。半身。邢道榮が死る。そのまが触ふれても。胸中の武藝。ひそかに廣頗李牧。も劣らず。勇氣も。劉度をもとめ。もあひのまへて。城下を三十里をあまて。山より水より陳をも。邢先手として。城下を三十里をあまて。山より水より陳をも。邢道榮馬を出。大音あげて反國の賊。あひぞも界を侵すと。よびりル。邢道榮中軍。もう一輪の四輪車を。手をせ。頭を縄巾をひき。身を鶴氅を被て。手を羽扇をもつて。も邢道榮を指

す。孫きよまきよまき。南陽の諸葛孔明。あり。曹操百万の勢と率ひきたり。一ぐども。まきをもててぞうの計。をもひく。一人も生く回る。あし汝。あんじ。さとみやう。降參せざると。よびりル。もべ邢道榮。大ふよし。曰く赤壁。も曹操を破り。かあま。呉の周瑜。が計あり。汝。あよそ。訴。ぞ。人。ようてを。孔の口を動せと。大あく斧を打振。馬を乘。て討とうま。孔明車を回。て内に。入。陣門を閉。クリ。刑道榮をもよ近づき。ハ。陣勢又左右。ひひ。二手よよ。と。逃走。邢道榮もよ中央。とのぞむ。一族の黄ある旗。続擁。しく走り。とき。が。まき。あら。孔明。あらん。と。馬と。ぐと。そつ。蒐。山の腰を。ひる。ある。黄ある旗。を。引。回。と。忽ち。陣勢をひいた。張孔明が



車へよひ。一人の大將矛をよみた。馬をよみて。無人
張承ありと名乗。その声雷のどく。だまう。邢道榮を討てる。
邢道榮怒り罵りて。斧をよみて。二三合戦ひり。叶ふと
走り。馬をよみ。邢道榮馬を打て走る。
兩方より伏兵一度起り。劉岱を攻め。命をもとめ戦
うちく。逃げ出たる。一人の大將行前をよみ。常
山の趙雲あり。あらゆき降奉せよとよびり。馬を邢道榮のが
べきす。あく馬下と地をひき。趙雲走る。陣中を回
り。馬を玄徳大ゆき。斬て奔よと宣へ。孔明きよよまと
とど。邢道榮を問へ。曰く汝も一劉岱を生取きたうべ。まよ
か。汝を重く用ひ。邢道榮を曰く。即時を行く。生捉きな。

孔明が曰く。いある計をもんじて。生捉べき。邢道榮が曰く。某及
放りゆべ。よく計をあさん。夜よへぐ。劉延が陣へ攻來たま。
某をあす内。應せん。劉延も一擒もあり。劉度がのの
か。降參を。玄徳の曰く。まづ言ふ。あらん。首を
刎。孔明が曰く。邢道榮ハ詠や。と大將をあらざる。まづ計
よあたゞ。今夜も一劉延を生捉あらば。形をもとめく。用ひえ
と。即時放り。回り。まづ邢道榮を。軍を回り。劉延ま
みへて。右の趣を語る。劉延が曰く。いふべく。敵を拒ぐべき。邢道
榮が曰く。敵の計を就く。却く計とな。今夜軍の外を兵を
みせ。さき陣中をあく旗あんぞと立。孔明夜討きたうべ。公
休さき。休さき。休さき。休さき。休さき。休さき。休さき。休さき。
色ぐ生根。劉延大喜び。兵を休く。相待まべ。案のて。ア。具夜

の二更。一手の敵軍。とぐく火炬をうち。たちまち寄來り。陣屋
を大やうけこうへ。劉延ままでそそ。一とどみどりて喊び造り邢道
榮と二手み分き。討と生れまへ寄手の勢をひぐ。逃走る劉
延勝えのれで。十りあやう追うけ敵も行方あく逃けまへ我陣ふ
火のうきりたちを滅んと。早く回り忽ち陣屋の中より。
一人の大将。その声雷のとくよき。燕人張飛ありて名乗て火乃
光の内す。斬くらむ劉延をも。騒きまく邢道榮とよび。
まゝ陣を。とも火掛ぬまへ打奔く。却く孔明が陣を攻くまへ敵
の備あきと却きとあくと。よしとよしと。よしとよしと。十里をうり來り。ま
ば趙雲軍と。れて路をも。金剛山。一鎗。邢道榮と突殺。と劉
延あべて。ふたやき馬を打て逃げ。とよく張飛後すりぞりて掛り。

引組ひぐ縛來る劉延地をひきまへ。まことに某が本心。よあらず。邢
道榮が所為あつて。ひきまへ孔明をあやう解免。一酒をもてて城
中をうり回。いそが城をひきと降ろす。ときあく。即時。又踏破へ
たり。零陵城へ入る。アルまへ劉延父を見へ。孔明が徳を称
一卒を城と立て。父子とも。降泰を孔明をあやう。劉度を初め
とく郡守ヒー。兵糧を軍中。半とし。劉延と旗下の大將とく。
郡縣の民とぐく治り。又桂陽城を取ること。計と評高
き

趙雲計取桂陽城

零陵郡をも。治り。孔明が徳諸將。問て曰く。まく入桂陽
城を取ん。わざとたまに。人うまが行人。趙雲が曰く。某無からざ
れ

行く張飛をとり出で曰く某ひ孫策も行人孔明が曰く二人あらそひと走りあきどよ早く合なまべ。なぞ趙雲を用ひて張飛が曰く某も行人とて称づ。あゝ又角ひゆる孔明が曰く志をふべ闇セとりて行ひ。趙雲張飛まもがとく闇セとりル。又趙雲先より文字を拈りまば張飛大々腹を立て曰く其他人の助をたのまど。なぞ三千余騎を引て忽ち又桂陽城を取る趙雲が曰く其もたゞ一人三千の勢もく城を攻り打負ハ軍法で被むる。孔明がよかとく軍令状を書せ精兵三千余騎をゑらんで趙雲を引け。張飛も角て眼せざりて玄徳大喜びて退り。趙雲はもよろあび三千余騎を引てさとを桂陽みをむりの由さきだれて沙汰ありル。桂陽の太守趙範めつてをえき急々詔

將をあわせて計を議を元来手下の陳應龜龍ともよ二人の大將あり。もよかよの常と超ぐ。陳應によく乖叉てほうへ龜龍。虎を搏みと二人ひとしく出て曰く玄徳へ漢を反く逆賊あると。又曹操を敵とあそと某孫策を先手とぞ生捉し太守趙範が曰くよと聞。劉玄徳の漢の天子の皇叔とくとよ孔明計深く。関羽張飛の勇あらわゆる。況やのよを来る。趙雲もよとく。内て當陽の長坂を曹操作が百万の勢をうちてもよ降泰をとて。陳應が曰く甲斐あそとて宣ひ。されば破れ。人あそとて行がて。もよ手ひうべ、拒ぐこと得ん。其打向ひて。り。趙雲を生取きたまひ。そのとたよ降りたま。趙範もひとと得を。陳應を大将と。三千の勢を引く城外よ。

陣で東せり。趙雲のまこと。陣勢ひし。下く陳應乘又
とひねりて。一陣。馬。牛。一騎。趙雲大音。がづて曰く。君
劉皇叔。を。あへち荆王の弟。公子劉琦。たも。けく。幽中
の民。と安ん。ト。人。汝。あへ。降。陣。應。走。とき。あざ
笑。あ。玄德。と。劉琦。よ。と。と。曹丞相。遊。逃。り。
呼。ア。リ。ま。趙雲。大。怒。鎗。ひねり。突。く。陳應。飛
又。ゆ。馬。と。戦。五六合。と。あ。を。そ。走。り。け。ま。
趙雲。ま。と。追。来。る。と。陳應。引。回。と。飛。又。あ。げ。付。な。り。趙
雲。う。用。心。一。ル。左。の。手。き。受。と。却。く。陳應。あ。げ。付。る。
と。陳應。ま。身。と。避。ん。と。と。ま。趙雲。が。馬。の。と。と。ま。き。な。り。長。き
臂。と。べ。く。陳應。と。の。抱。と。大地。み。ど。と。あ。げ。れ。ば。残。る。兵。四。角。八

方。と。散。乱。と。趙雲。と。む。ち。陳應。と。縛。と。本。陣。え。り。放。あ。ま。の
え。を。ま。き。と。敵。せ。ん。と。る。と。首。と。斬。ヘ。リ。と。刀。と。け。づ。く。そ
の。益。う。と。お。の。人。と。志。が。く。免。と。の。と。ぎ。城。中。と。回。り。と。太。守。趙
範。と。降。參。と。と。ち。よ。と。と。放。一。ル。と。陳應。罪。と。謝。と。く。
頭。と。く。と。城。と。趙範。と。見。く。右。の。由。と。告。け
れ。ば。趙範。と。白。く。と。本。す。と。降。參。せ。ん。と。つ。く。と。放。か。て。戰。い
と。あ。し。と。却。く。右。の。ど。と。と。陳應。と。追。出。と。卒。と。十。騎。あ。ま
り。と。引。と。降。參。の。由。と。ひ。る。と。趙雲。と。う。ひ。入。と。上。賓。乃
礼。と。あ。り。と。と。あ。く。敬。ひ。酒。と。ま。や。と。あ。ー。る。酒。數。巡。よ。いた
り。と。趙範。と。る。と。と。將。軍。と。某。と。と。あ。く。趙姓。あり。ひ。う。と。定
て。一家。の。好。と。あ。う。と。と。是。の。と。と。上。へ。と。と。兄。弟。の。義。と

ひとび長く一家の交をあさへと。だがひよ年をたゞぬる。三人
同年うふ。趙雲四月を生。生たりと。趙範再拜。兄とあどぎ。同ト鄉を生。同年同姓。あまべ。人をあへ。吉者
晩みと。うぶ。相別き城中。えい。はまの日。趙雲とよ。経きけ
れ。ベ趙雲。な。五十余騎を率。し。城入。郡中の百姓。ま
香を焼。尺く道のうた。不。出。ひそへ。北。趙雲四門。榜。う
け。民。安。ノ。趙範。府中。入。酒宴。あして。り。す。
半。酔。う。と。請。と。後堂。入。お。趙雲。の。慇懃。あ。そ
や。か。て。痛。く。飲。醉。り。と。趙範。一人の美女。呼。ん。ぞ。盞。と。ふ
し。趙雲。あ。ま。と。そ。身。素。き。羅。と。奢。と。傾。圓。の。色。ま。と。あ
そ。あり。く。ある。人。ぞ。問。趙範。答。て。こ。ま。某。が。嫂。を。樊。

氏の女。あり。趙雲。容。改。や。ほ。ん。敬。ひ。る。お。趙範。を。れ。ち
う。の。女。坐。せ。よ。と。お。趙雲。無用。あ。と。止。や。と。女。き。と。ど。内。入
り。趙雲。曰。御。辺。あ。ま。べ。う。る。ぐ。く。嫂。と。坐。と。入。趙範
笑。ひ。て。曰。く。う。る。不。思。義。の。縁。あれ。を。將。軍。う。あ。う。と。あ。や。ー。と。す
あ。某。兄。を。と。世。を。辭。し。三。年。を。ま。り。嫂。年。少。く。と。寡。と
ある。某。常。え。う。と。き。婿。を。あ。う。べ。の。う。な。と。嫁。し。や。ん。と。く。べ。嫂。三
川。の。望。あ。一。川。え。世。高。名。と。取。二。川。え。せ。ひ。一。夫。と。姓。同。く。三。川。
ハ。丈。武。の。才。あ。ひ。全。く。ち。の。三。川。の。や。の。そ。あ。き。う。人。あ。う。ば。あ。う。を。再
嫁。ん。と。い。ひ。ま。將。軍。を。見。儀。表。堂。と。し。そ。の。名。四。海。と。振。ひ
兄。と。同。姓。あ。ま。べ。あ。ま。と。と。き。た。る。ゆ。あ。う。ド。称。が。く。と。嫂。と。將。軍
の。妻。と。累。世。の。好。と。む。と。ん。趙。雲。眼。と。ひ。う。と。坐。と。起。と。声。と



厲し。汝が嫂あねちはあらちもが嫂あねち。あんぞ人倫トノリを乱す。
きやと。わいの外わいに怒りいらる。趙範さち深く羞かて面おもてとあらぶ。吾
懲懃ひびきよりてあきあきる。あくへ右無礼うそふれいあるとく。左右のそゆうも目加
く。生振おのぞんとまき氣色きしきよぐり。趙雲さちよまきとせ。悟り
まゆく拳こぶしと固いさごく。趙範さちと打うつたを。卒そつ馬まと乘のく。城外
よ生去いのき。趙範さち頭かしらやくへそ。いそぎ陳應ちんのう。趙龍さちとよ。ひきせ
んと詳くわく。陳應ちんのうが曰く。趙雲さち大おほ怒のりて止とり。ひきせんは
まろよく一軍ぐん。趙範さち曰く。よき。怕やがく。ひまよ勝かつとあらぶ。
趙範さち曰く。是三人よの詐さと。趙雲さちは降おりて陣じん中なかと相待あわせて。
太守たいしゆ兵ひと引ひくよせ。其二人そのふた將軍しょうぐんののとよ。將軍しょうぐんののとよ。
曰く。太守たいしゆの計けいひらと好す。よどと小勢こせい。引ひく降お泰たいせよ。趙龍さち曰

く。たゞ五百騎ごひきをあらべて行ゆく。その夜よ二人ふたり趙雲さちが陣じんを行ゆく。
泰たいの由ゆを告げ。趙雲さちの申のすの詐さあるととあらぶ。よべて全まつて對
面おもて。三人よの地ぢと拜まつり。趙範さち美女めいじと。將軍しょうぐんののとよ。將軍しょうぐんののとよ。
下げ。醉よ後あと首くびと取とく。曹操さうばくと送おもてうと計けいる。其二人そのふた將軍しょうぐんののとよ。
よく。手勢てせいと引ひく降お泰たいをとひへる。趙雲さち詐さりて喜よ。あ
酒さけと。前後まへうしもあらぶ。二人ふたりと醉より。忽すこちよあがめて帳たて下した。引
き。手勢てせいと。考問こうもんと。詐さの降お泰たい。趙
雲さちをあらち。陳應ちんのう。趙範さちが首くびと列はた手勢てせい五百人ごひゃく。酒さけを飲のせ。列はた
物ものとあらへく。罪つみの本もとの二人ふたりと。汝なホなが。有ある。有ある。有ある。有ある。
も。計けい思おもたが。後あと。あらざと多く賞たんじせん。りへる。諸しよ軍ぐん尽つく。
く再拜さいはい。趙雲さちをあらち。五百人ごひゃくを先手さきて。三千余騎さんぜんよひき

夜中々桂陽の城々行。陳應、鮑龍二人。趙雲々殺たり。
早く門をひきりとさざりと城の上より火矩をあげておま
やる。果てて火矩を城の上より火矩をあげておま
あんぞ門をひきりと趙雲がもせへり趙範と生取く。百
姓を安んじ。早馬打て玄徳と進む玄徳孔明をとて桂陽
みきなり。ハル五。趙雲城を出でてあるとゆく太守趙範を志
ぐく階下より入たり。趙範をあんぞ孔明をやうへ。それが
嫂をゆく趙雲をあんぞ本ほゆ降參せんとをひりと趙雲
府で怒をあしとせのどく生挾なり。孔明をあんち趙雲と問
て白く美人は天下の人多せざるとあり。御邊ある人多怒りおひ
一。趙雲が白く趙範を兄某ひく故郷ふく一面の交わり今若

その妻をゆく。某が妻とせば古世の人々唾を吐まへてありそ
の婦人再び嫁とて貞女の節を失つて二つあり。趙範をとて降
りせども。いまとその人の眞偽をあらうと三つあり。君のな
荆刃を取て人の人のと安ううと某あへぞ。一人の美女を
弱も。君の政を廢せんや四つあり。あの四つをゆく。某あふ。要
とせん。玄徳の白くい事とて定まつて。汝の婦人を娶る
功名の天下立ざるを怕る。あんぞ妻子あきと患せん。玄徳
ひよ。趙雲が自く天下の美女へと一人えりだつて。某へた
大々嘆じ。趙雲へととの大丈夫ありとて。卒と趙範と免へく
初のとく桂陽の大守とく。やく趙雲を賞せられ五。張飛大
みとけん。趙雲をとて桂陽城を取く。大ある功を立たへり。とく

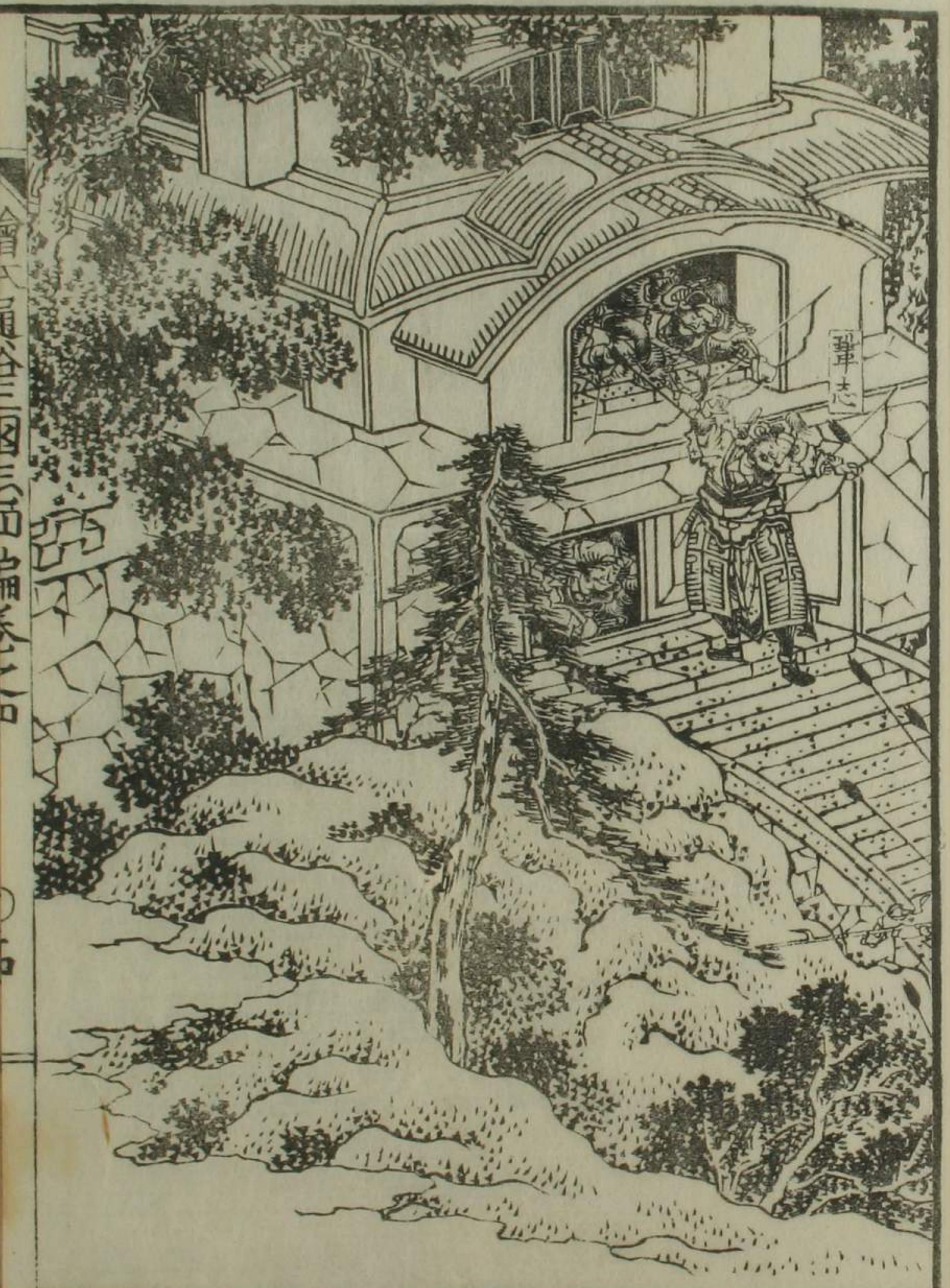
一人はあまに無益の人とある。たゞ三千の兵を引く。武陵郡とのう取太守金旋。ひれはらん。持ちなんさんとひよ。孔明の喜び。さな。謂うんちうどつ。けふうちせう。桂陽城。とくどんばう。あらうぞ軍法。うふ。雲打卦。もー。桂陽城。とくどんばう。あらうぞ軍法。うふ。うふ。うんとく。軍令状。書置り。御辺も又是の。どく志々人といへ。されば。張飛。まれ。ち。軍令状。うき。三千余騎を率。とく。武陵城。ちうあう。

へ発向を。

黄忠魏延獻長沙

張飛三千余騎を引く。武陵城より來る由。早馬急を告り主。太守金旋大をどろき。即時。よ。兵をそろへ城を出。戦へん。と。きよ。従事華志。よ。よ。の。とく。み。生く。大。と。練。玄德の大漢の皇叔。とく。仁義を。とく。天下あらる。張飛。まれ。世の虎将だ。

きよよく。あなた。まよ。ト甲を卸ぐ。降參。とく。人をひく。金旋をあひ。ど。怒り。汝の敵内通の。む。あ。り。ま。所。汝が首を刎ぐ。とく。武士。命。とく。討せん。いふ。て。諸人。毒。とく。人を一命。と。精受。いまと。戦ひ。がる。ま。と。大將。と。切。あ。ん。と。味方の。な。や。不吉。あり。といへ。か。も。金旋卒。と。華志。と。追退。と。け。三。城外。二。千里。と。あれ。て。陣。と。り。張飛。が。勢。と。生。あ。ひ。なり。張飛。は。元。来。性。躁。と。く。と。ま。あ。あ。人。ぬ。大將。あ。ま。べ。敵の。ま。た。と。え。と。兎角の。問。答。あ。と。よ。き。と。オ。と。ま。べ。と。く。斬。く。くる。金旋。大。音。あ。び。と。兵。ど。も。生。と。戦。へ。や。と。ひ。り。ま。ご。手。下。の。大將。と。あ。怕。ま。と。一。人。も。生。る。も。の。あ。け。と。ば。是。非。あ。く。馬。や。牛。と。戦。の。と。と。よ。張。飛。が。と。き。叫。ぶ。轟雷。の。ど。く。あ。る。と。膽。と。ひ。と。色。と。失。と。く。逃。ひ。と。張。飛。兵。と。う。と。



會文圖全圖三百幅卷之二

之四



卷之二

三

のうち。金旋をとどく城中へ入らんとぞ。矢倉の上より雨の降り
とく矢を射うけ。翠華志城上に立あらるま。汝天の時とあらず。そ
がおまの敗きをとれり。多く民を殺す。全く玄徳は降まうといれ
も果をよく引て兵を射る。金旋面を射られ馬をさうさぬ。落
けると軍士首をとめて張飛をれど城に入りて民を安んじ。翠華志を使と
降奉しけ。張飛をれど城に入りて民を安んじ。翠華志を使と
く桂陽城を遣し。玄徳おのの由を報を。玄徳おれど武陵
みきなり翠華志をもて太守と。三郡をとどく治り。三郡の内
深く喜び書簡と荆歎の城を遣して。関羽おまの喜びを告ゆ。
関羽回書をとく。三郡をとどく治り。趙雲張飛大功を立たり。
君もく兄弟の情をあわす。某は長沙郡を攻ませ。とも功名を

取らむ。とおもひ。玄徳喜く即時。張飛と荆歎へは
て。関羽とく。城をとどく。関羽おまをきひ。人の中
勇を喜び。おまやく。來りて。玄徳は見る。孔明が曰く。趙
雲桂陽城を取。三五千の
勢あり。はは長沙郡の太守譚玄の大將をとく。
よからざり。手下二人の名将あり。南陽の人。黃忠
字を。蘿外と。おとて劉表の事。中郎將たり。がい。韓
玄を。手を属し。年をとどく六十。おま。と。鬚を白
とり。力とて大ある刀を使ひ。万夫不當の勇あり。をあち。湘
南の領袖あり。おろべく。敵をかく。御邊り。むかひ。金
ば。よろしく。大勢を打立た。関羽曰く。軍師あよへ。他人

の触と称して自己の威を落すべし。量より一人の老武者。某ぞそのもの不足人や某三千余騎と借す。手勢五百騎と軽く。又あきらかに黄忠韓玄が首を取きたる。玄徳の曰く無用く候。あきらかに輕く。某も一三千余騎と借す。ひときわ軽く。勝ても甲斐ありと手勢五百騎と引く。卒に長沙まで。孔明をあきらかに徳より。ハ関羽の平生上九人より下九人である。もと黄忠を軽く。あやまちのうへ君も行く。関羽の力でそしゆへともへ。玄徳がふと跡をははへ打起す。長沙の太守韓玄が元より生ま付とがまへと賢人をうちゆることある。常々謀人のたゞ悪玉。まの日関羽が攻来る由とまこと。ひそだ老将黄忠

とよんぐ計と議り。黄忠が自らも御心を告へらゆ。某例の大刀と大弓とてやれて討て生。もと敵千人をたゞ一千の首と取る。万人をたゞ万の首と取る。とたゞ一人をとみ出で曰く。あの度の戦ひ。老將軍生ゆる。某すう生じ。關羽を生殺さぬ。諸人をまことに。管軍校尉楊齡あり。韓玄大喜び。ゆく恩賞をあんへる。楊齡欣然じそ馬上のり。まくら兵を下す。城外を突出し。もとより馬煙のあらきて。見て。陣とて相待。大音ふ。おもく。射り。馬を下る。ひとしく。力とまく切く。楊齡鎧をひねりて馬を下へ。がた一合。もとそれから。残る勢は四角八方を散乱す。韓玄もまどきしてあひて験き。いそぎ黄忠を

大將。城と土と戦ひ。かく高櫓のむかへてのぞむる。關羽ハ勝。城近くせよせり。年老ひる大將門。ひづひて生そと。まよ。あうぞ黄忠あうんとをもひ。五百余騎を後ふとあへ刀をひきげと馬をもどす。來るまの黄忠。あうぞと問ひ。黄忠あたへて曰く。汝もとぞ。我いよまて。來りて汝が鬚首を取る。黄忠大々怒り。力をもつて討く。もと。又戦ひ百余合。勝負てわからず。太守韓玄。矢倉。のぞひ。黄忠が失あうんと。柏生。鐘。あかく。軍と。收め。黄忠あつそひ。城に入り。關羽も十里。走り陣を走り。黄忠年老なり。武藝をと

よ。凡あらま。今日百余合の戦ひ。一川も疎ある。とうとと。はぎの日早天。兵糧を使く。城近く。よせら。太守韓玄。高矢倉。のぞひ。黄忠。生よと下知をまび。黄忠數百騎。引く橋を渡り。喊どりて造り。又關羽と馬をとひ。戦ひ。五六十合。勝負の色。と。西軍尽く。全のみだま。喊をほり。鼓を打る。關羽馬を飛し。逃走。黄忠のまどと追う。け刀をあげ。後より砍へ。關羽。ひづく聲をき。後より。へりとまべ。黄忠が馬前足を抗ぐ。主へ地上より下立なり。關羽刀をうちふげ。と。どよ。討へ。と。おきり。と。元体。え。伐人。も情あへと。と。おひま。よ馬をと。今。汝。二命となぞ。再び馬とのり代へ。おろす。勝負せよと。ひせ

れを。黄忠りもとを城中へ走り入る。韓玄汗てあがへ。いふあ
る。人ぞとたがひぬよ。黄忠が歎く。あの馬久しく陣えのござま
る。人失あり。韓玄曰く汝が弓と射る。百度もあせば百度もた
る。明日あうきに橋の辺までもむきよせ。なべ一矢。関羽を射
よとく。青き名馬をあかへる。黄忠心の中に又さみひきと今
日きをと討るべく。と。関羽情ありと。幸々放したり。とき
いりで。明日をまとめて射さるを。とき。君の命よ
なぐ。あり。ひきとく。ひきとく。決せど。一夜あぐだま
ひぐく。夜もととく。明方とよへど。関羽もやよせきなり。
かぶ太守韓玄ひとも。黄忠とよび敵とあざむきよませて矢を
射殺すといひ。まことに。黄忠まれうち兵を多く城を出たがひ

ヨ威風セ相攢レ。又三十余合戦ハ黄忠詎まく走リサ
ミ。関羽きうちよ追來。黄忠鼓近くあり。アラモトヘリ。之
て。ミドヨリ。弓をさす。張せども。昨日。ままで。殺さり。情セ
感ト。茲をうりとひぐ。ル。身を。殺さり。情セ
矢を。きたり。ざく。バ。又。ま。追。う。る。黄忠又。慙。セ。鳴
」。けれども。関羽ま。ま。と。避。矢の。き。た。を。ざく。と。え。く。と
で。よ。轍。の。辺。まで。追。う。け。た。ま。バ。黄忠引。回。し。と。兵。と。射。る。其
矢。関羽。が。盜。の。纏。あ。た。り。前。あ。る。勢。一。度。よ。喊。セ。作。り。ハ。ま。バ。
関羽舌。を。あ。み。ハ。矢。を。帶。く。迂。回。り。ま。と。と。黄忠。が。弓。術。ハ
む。う。く。名。セ。得。レ。養。由。が。百。歩。よ。楊。の。葉。を。穿。巧。ア。ハ。ま
盜。で。射。く。ま。ま。と。駄。レ。ハ。ま。取。日。の。情。と。お。す。ア。人。あ。う。と

とく。兵を下す。あつぞきたり。黃忠は敵のあつぞくをもと城中より回り、韓玄の外を怒り。武士とよんべ、まづ、黄忠大々叫んで、よき罪ふーといへる。韓玄にけられ、夫倉とのがれて、三日があひど合戦のやうとする。再び兩日戦を決せず。今日関羽が追蒐るを。終而已をあふ。て第三の矢を盛り、纏を射たり。昨日関羽がなまく、後の禍をあきらめ、内通のふとさへさむ。汝とも一生涯置ば。あらざ外へ引生さし。諸人ともて諫へてあひまべ。韓玄いあく怒り。もし諫るをあうべ同罪。とああんとわからずよ。祠で生をやめ一人めあー。武士とも率り生じとをとて首を斬る。

もと不よ忽ち一人の大將刀をひらきて。武士ともと斬ちかへ。黄忠とたとけ生じと大音ゆけ。黄將軍はよと長沙の名将。は韓玄大逆無道よと。賢人や軽くド色を重へども。黄忠もあるととへ長沙の百姓を滅やまとあり。志同き人へよまされたとよびりかよ。諸人ともとよろよ面へ重束のとく。自朗ある星ゆ似なり。義陽の人。魏延字は文長とく。本へ劉表が大將なり。昔年玄徳襄陽よきなり。ひへと城を出ぐ。從つてとせら。その行まをさうへ。ばたの衣を折てまづ居たり。韓玄却てその能を忌て常々よもぐへ用ひざり。魏延刀をまくと黄忠をなまは。大虜ぬきよあひ。同志のよどもと諸うへ。ね百人を引く。城中よ斬て入る。

關羽

黃忠



黄忠再三とむきどみうちみさるを。又びくら真先まきんとんど。太
守韓玄かんげんと一刀一を斬死し。首くびをとりて馬ばを打たのり城じゆを出で。關
羽かみを降おりるを。關羽かみを喜よろこび。長沙ちやうさの城じゆ中なかに入いりて民みんを安
んつんど。使つかせゆれて黄忠こうちゆんをりる。黄忠こうちゆん病びやくを抱いだくと出来あります。
關羽かみをあへち早はや馬ばをとせ。勝軍かつぐんのゆうと。玄德げんとくを注進しゆしんする。時
玄德げんとくへ孔明こうめいと馬ばをあふ。關羽かみが軍ぐんの元もとあると。跡あとを追おいて
まなづき人ひとを前まへす。おびたる青あおき旗はたをのぼのぼりとまへ。河かわの
鶴つる北きたより南みなみを指さす。飛とり三声啼さんせいびくと。玄德げんとくの
曰いく。吉凶きちゆう。孔明こうめい馬ば上うと占うみす。曰いく。長沙ちやうさとどく味方
す。属しゆす。又良大將よしだいじょうと得えく。午ごの刻ときを喜よろこび。報ほうをぐと
て。ども之路じゆをひそぎり。ぶとと午ごの刻ときをひく。一人馬ばを鞭むちと

加くわへぐ。飛とりとくとせ來くわり。關羽かみを長沙ちやうさの城じゆでとくと
黄忠こうちゆん魏延けいたんホほ尺しゃくとく降人こうじん立たりと告ごげ。玄德げんとくを
あへ喜よびと。長沙ちやうさの城じゆで合戰ごっせんのゆうと問たずひ。黄忠こうちゆん卒そつ
降お參さん。太たい守しゆ韓かん玄げんげんを昇のりて求めく。城じゆの東ひがに葬さる。玄
德法げんとくぽと半はんと。民みんを治はめ。關羽かみ又魏延けいたんとよもあへ
きなづきなづ。功ごあるよ。と。玄德げんとくをくらやまへ。と。孔
明こうめい勃然ばつぜんと怒いりて曰いく。魏延けいたんす。韓かん玄げんげんと仇かたあへえ
く身みを寄よく。日ひは主君しゆきんとのみたる人ひとを勿む心こころちく殺さへ。降
泰たいと。ある。不義ふぎある。諸しよ人の戒いましめ。首くびを斬しか
く。武士士をよべ。引ひ出だへ。玄德げんとくをよどめて命みことを請ね。

降する人と殺しん。人あらず不仁者いざ魏延へ功ありて罪あり。ああ人殺して問え。孔明曰く。子の祿と食く。子の主を弑す。子不忠あり。子の國を居く。子の地をたふる。子の主不義あり。子よく魏延が相てくる。脳の後又謀反の骨あり。いま味方又降る。後うあうき。叛く。あう早く誅す。禍の根をたく。玄徳の曰く。り。人の心。あるまごと荆歎を定むるの計。もとをうれふず。余どなとよく忠を尽して因心で報す。野心を抜むと放す。野心を起すこと。早けよ。晚く。即時。汝が首。べー孔明をあへち。魏延よ。むろて。よ。汝が命を。わく。よく忠を尽して因心で報す。野心を抜むと放す。野心を起すこと。早けよ。晚く。即時。汝が首。べー孔明をあへち。魏延よ。むろて。よ。汝が命を。わく。

劉表の姪。劉磐より。人攸縣。間居。居によく。告ル。玄徳使をもりて。まわをよせ。うち長沙の太守。四郡をもよ定り。師を收め。荆歎の城。回り。凍上。九郡。もよ過半と得。ひく。バの内大喜び。江口。江。復巴陵。凍陽。冥の國。守り。夏侯惇。襄陽。落。後樊城。籠る。外全く。玄徳。属い。油江口。公安。わう。城を築き。兵糧金銀の貯澤山。四方。賢士。わう。こきなり。仕。謀。謀所の要害。勢力。けく。用心。まぐ。守り。周瑜。梁。孫。回り。病。養。金瘡。癆。甘寧。

孫權大戰合肥城

周瑜。梁。孫。回り。病。養。金瘡。癆。甘寧。

邑陵城とあわせ、凌統と漢陽城とあわせ呂蒙と江夏城とあわせを。兵船と船と備とあわせる。程普の諸軍勢と受け合淝を行く。呉主孫權が戦ひてたまへしものと孫權は赤壁と曹操と破てす。合肥の城へ究竟の要害を上曹操は一大事とさへりる。都へてから張遼、李典、樂進三人の大将と籠置へと。遠巻は十度戦へとりへども、ぐれき勝負ひあらず。たゞ遠巻は志ならざりふ。孫權は城へとある。五十余里下へて陣取り。浩然不休程普大歎て引とぎたり。孫權は喜びて門み生このをもとる。魯肅は入へりて孫權馬す。下へてあるとむす。魯肅は馬す。飛で下。程へて

私であらま。諸將打續ておまきなり。孫權が魯肅をやめよとぞ。とあ大みどろ。きけり。孫權が馬をあふて。魯肅ととゆみ陣門へりましゆ馬す。下へ汝をむくへ赤壁。曹操と破り。功をあるをと足くらべ。魯肅答てやうへ君の馬す。下すとく。あへぞ某をあらきとせん。諸人のまきと。又大み将く。孫權問て曰く。あへば公がせば。汝をあらかと足く。魯肅曰く。私をく。君仁徳を四海に布く。九死を尽く治り帝業を創り建く。ちのと安車蒲輪をゆべ。某をめしゆ。某が功をとゆ。某が功をとゆ。孫權馬上と手をうけて大みまし。陣中とて酒宴をふと。とくと赤壁の勝軍を喜び合肥城を攻むるの計を議す。

る。年々心ち張遼が方す。戰書を下す。明日一勝負せんと云。送はまべ孫權怒て曰く。憎き奴。所為うれ。今日味方。程普大勢。引そを加りたるをきへ。明日一勝負せんと。どひとくもく。されどよきと恥じら。今までの合戦。嘲弄。する。又義あらば。明日の合戦。程普が生手で一人も用ひ。まず麾下の勢をうつ。ひ。さうよく手柄をあらさんと。その夜の五更。兵糧を使ひ。程普が生手で陣屋をまわる。三びうち合淝の城を攻くる。城中にも敵なし。よみきならん。射て坐てたゞへと。尽く止ける。ままでよ辰の時。ひ。兩軍ひとく坐合。ひ。陣をひ。ひ。孫權へ金の盃を朝日えりやう。宋護賈華たり。大將也。左右えもん。三通の鼓を打て。矢合の鎗と

射す。魏の陣中。門旗をひらぐ。張遼中央。馬をひらぐ。左は李典。右は樂進。甲を。赤いとこみ。張遼。孫權。封てられ。孫權が後す。一人の大将鎗を提げて飛ぶ。生なり。謀人。豈そ。と云。吳の大將太史慈。あ。張遼。馬をまとい。二入火とちふれて。戦ひ。八十余合。いまだ勝負を決せざる。又魏の陣。樂進。李典。大音。あ。ある。金の盃を。著な。吳の孫權と。も。のの首を取れた。赤壁。討す。八十三方人の仇を報む。あり。と。さざり。刀を。と。真横様。と。けた。の勢ひ散然。と。電光の速き。似たり。孫權が左右す。宋護。賈華。戦てまつと。ひとく坐。ほけ打。打け玉。

樂進馬を回りて宋護兵の持たる鎗と盾のがさで、そ
れらをもとべ李典、郭嘉らあひて引回して兵と射す。その矢來
護が胸板を射透し、馬もさきぬき落て死んで、大史
慈があはれ、張遼と戦ひり、後又人の馬と落ちて、とて
どろきだる馬を回りて走り、とべ張遼大勢と引くと攻る
。吳の勢をぐみだと、四角八方へ走り、とぶ張遼、
孫權と目がけ馬を乘じて追討する。討と生威と震ふと云ふせ
れ。張遼兵を收め、城中へ回り、とあとのとれ孫權と
程普あり、生手でやられて、張遼で城中へ追かる敗軍代
引く本陣へ回り、と孫權討めたる兵をねへ、大將宋護

射殺さまへる。涙をあげ、とあげき哀じむ長史張
紘がきて曰く、君の御年壯あるをやめて、強暴の勇と
たのこじと血氣の戦とあるをゆきよよけて、誌へん
て寒きとひとあへても、陣のぞんで敵の大將を討
ひ。分取高名とく、威てなくまかずらひ、まきそれから偏將
軍のもうかる。君の志すとあふあうぞ。猛のくら血氣の勇
をときとく、王霸の計をあわひて、今日宋護が敵の矢と命と
うつあへる。あはる君の敵と軽いとぞとよれり。いまよ
りとく慎みゆへとひひまへ孫權理と服しとく。おままで我
過あり。まますあひたやへとぞうくありとく大將太
史慈生来り。今日味方打負ひへども、某が手下と定て、

太史悲
計成子
討上死



太史慈



る所あり。幸く張遼が馬飼と兄弟あり。おまえもて今夜
城中火の手をあげて合戦をあし。ひそかに張遼が首を取
んといふ。従つて某は五千余騎を借りて時刻とて令會を
城中攻入して宋護が仇を報せんといひたまへ。孫權が曰くそ
の戈定は今何よりある。太史慈が曰く。さとぞ又合肥城へ志が入
たり。然菖瑩が曰く。張遼は三男の男もあらず。智深く計をや
くあらむを用心せば。うろこは無用あり。太史慈が曰く。城
中の勢へ今日の軍を勝ちて。あらむをも油断せん。もく内
外より擡破り。忽ちよ城を乗取らへ。再三走りてのぞみを失
孫權も人の内。今日大將を討まなければ。口惜くとも。まの
うみで報せんと。卒は五千余騎をもてて太史慈を

けたり。このとき戈定は。ゆとす太史慈と同鄉の好友と。張
遼が弟をもつて城中へ入。馬飼と兄弟ゆく。人
卒はたゞて二人一所をすり合ふ。とて太史慈將軍と合戦を
さだやとり。今夜あらむを計らふ。とて計をあ
きらめ。ハヌキ。馬飼やうる。まの内へ本陣をもどす。まの
夜中も。まうも。まうも。たゞ草をばんで謀所をもどす。
け走り。まうも。謀反人ありとよづらべ。城中をもぐる。
上と下へと騒動せん。とて見。張遼をさへよろ一門をひ
ひく。走るべ。戈定大喜び。あの計もれだ。妙ありとて。
日の暮れて。待居なり。張遼は。その日の合戦を打勝。城を入
て。謀軍を恩賞をふる。今夜をも甲を卸す。ゆく。

とあり。まづぐく用心し。急きものあつてうごと。猶たり。
ひまへ。然將問て。今日吳の勢大ふ。敗きて。遠く逃なり。
ふあく。人々常すくも用心。まづぐくあくべど。あるく。とくに。
張遼あくそと曰く。さまで御邊達のあつる。あくを。とくに。大將
たちの道へ勝なまびとく喜び。負たまびとく憂ひを。今夜も
一油断。とく。吳の勢虚。のりて夜討せ。とき。あくを。やくと
う拒ぐる。ゆく得。今夜へ別。とく。夜廻ホ。と。まづぐくせよ。下知
して。この物の具も解。とく居た。それともあくを。忽ち
後の陣屋。火とうけて。一人の音。と。謀反人あくぞと。まづぐり。日
本。俄。城中。さのまがへくあれて。告來る。まの麻の。どく。張
遼。遼ちの。よもまが。馬。まの。打。出。と。とく。左右の。入。張

遼。馬をひく。ま城中。まを走りて。喊の声。れぞ。うろ
ぐ。出。あとと。ばや。と。張遼。首。も。城中。と。ぐ
く。謀反。せ。あきへい。と。兩人の謀反人。あくと。火。と。ば。
囃。と。造りて。城中。ま。が。と。のあく。も。と。みだり。ま。が。
のあく。べ。立。不。可。事。く。と。ん。と。下。知。け。れ。ば。と。ぐ。と。あく。と。丈
将。李典。う。定。と。馬飼。と。あ。づ。と。來。る。張遼。ち。の。や。と。問。て。
立。不。可。斬。て。と。と。け。と。ば。忽。ち。又。城外。と。鼓。と。打。鑼。と。あ。づ。と。
囃。の。蓋。袖。と。ひ。く。張遼。首。く。あ。ま。の。吳の。勢。と。縦。て。合。図。と。定。と。
内外。す。攻。と。計。と。と。の。あ。り。敵。の。計。と。就。と。却。り。と。計。と。
用。と。と。城。の。内。と。火。の。手。と。あ。げ。と。ち。と。ぐ。と。謀。反。人。ゆ。と
よ。ぐ。り。門。と。ひ。く。て。橋。と。渡。と。け。と。と。太。史。慈。と。と。と。喜。ば。

三さがさうま先まとみ兵ひ下げ知ぢ入い城じ上うすくをとまと。一か声こゑ鉄炮てつぱうあうそのどもそのれる矢や倉くら上う堤づのた築つきより。矢や射ひとと兩ふたのと大お木き大お石いしあげけけ。太お史し慈めぐみきくよよううぞのだきる全ぜん身み射ひ立たままたる矢や蓑もの毛けすり。ああががえげ。後あとすり李り典てん樂が進すす射ひ出だままばば吳ごの勢せい殘のこ少すくな。ああのてさんぐ走はりり。吳ごの陣ぢ近ちかくあのる。陸りく遜じん董とう襲しゆ兵ひ。ひいそそききなり。城じ中の勢せい追お回まわ。吳ご主し孫そん權けん大お後こう悔くわい。太お史し慈めぐみ痛いた手て負うけたまとと。それそあげきくあくとと。孫そん權けん大お後こう。張ち昭あきら。行ゆ軍ぐん收う。回まわ。人ひともも孫そん權けん大お後こう。不ふ卒そつ。南なん徐じ潤じゅん。下くだ回まわ。不ふ死しお。太お史し慈めぐみ病び危き。ああのち張ち昭あきら遣お。安あ否ひ。

問と。太お史し慈めぐみ大おきけ。太お丈じ夫ふ士し。人ひとががたた世よ生うれる。三さん尺しゃく劍けん帶た。天あ子この階段上あきま。いま志し不ふ卒そつ。遂つい。ああくそひあく死。死死。終おり。忽こ然ぜん。亡なば。かか。年と四よ十じ歲と。孫そん權けん深ふか。ああげき。南なん徐じ北ほく固こ山さん下く。葬さ。子こ太お史し亨こう。ままでで養な。

